



東京金山会通信 No. 1

東京金山会 広報担当 (藤山善夫)
☎080-5525-0435
✉fujiyama.d.siren@ae.auone-net.jp

「ふるさと金山を応援したい——」
「何年経っても生まれ故郷が忘れられない——」
故郷を離れて生活を送る皆さんの想いから誕生した東京金山会は、昨年60周年を迎えました。

④3月30日に役員会を開催。大場会長の会長統投と副会長の増員、広報係が決定。総会案内状の原稿や発送準備を確認しました ⑤役員会終了後には東京金山会事務所でお花見。差し入れの「ならだいの焼きトーフ」は懐かしい我が故郷金山の味。金山町の方言が飛び交い、楽しいひと時でした



築いてきた絆をますます深めるとともに、当会と町に住む皆さんとの橋渡しになればと、今月号から「東京金山会通信」を連載していきます。日々の活動や総会の案内、東京で頑張る金山人などを紹介したいと考えています。また、町のホームページ内に当会のページを立ち上げました。広報紙同様に活動を紹介していく予定です。

多くの方にご覧いただき、町と東京金山会の発展に繋がることを願っています。



「森の子ども図書コーナー」

交流サロンぽすと内

No.161



『まめとすみとわら』
(せなけいこ/文・作 あかつき)

みなさんは、まめにどうして黒いすじがついているのか、知ってる？一むかしあるところで豆を煮ていました。すると一粒の豆がぴょんと飛び出しました。それを見て、お鍋の下の火の中から一本のわらと墨がひとかけ飛び出てきて、みんなで旅に出ることにしました。どんどん歩いていくと、大きな川がありました。川には橋がありません。どうやって渡ろう？「じゃあ僕が橋になろう」とわらが言いましたが、墨はこわくてぶるぶる。墨が震えると赤くなってきて、わらが燃え出していました。そして川の中へぼっちゃん！それを見ていた豆が笑いましたが…。



※()内作者名

最高の入浴法 (早坂信哉) /そして、バトンは渡された (瀬尾まいこ) /ある男 (平野啓一郎) /こぐまのアーリーとあかいぼうし (わだあい) /ぶうぶうママ (小路智子) /魔眼の匣の殺人 (今

「ニムロッド」

(上田岳弘/講談社)



芥川賞受賞作品。新時代仮想通貨(ビットコイン)小説。技術が進む傍らで、人間だけが取り残されているような足元のおぼつかなさ。やがて僕たちは、個であることをやめ、全能になって世界に溶ける。「すべては取り換え可能であった」という言葉を残して。それでもまだ、人間でいつづけることはできるのか。

「1R1分34秒」

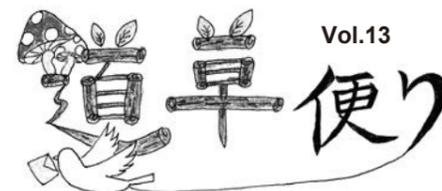
(町屋良平/新潮社)



デビュー戦を初回KOで飾ってから3勝1分。これをしてあげれば勝てたかもしれない練習。21歳の頃は、自分の弱さと人生に厭きていた。長年のトレーナーにも見捨てられ、現役ボクサーで駆け出しトレーナーの変わり者、ウメキチとの練習の日々がぼくを、心身を、世界を変えていく。

今月は8冊!

村昌弘 /イラストでわかる疲れなカラダの使い方図鑑 (木野村朱美) /ベビースターラーメン レシピ (おやつカンパニー)



山形大学の地域連携型サークル「Team道草」

道草だよりでは、彼らの町内での活動を紹介!

「金山町×大学生」で産まれる新たな可能性を模索します



どのお宅にも立派な雛人形が

4月3日(まだまだ雪が)。今回は柳原地区の雛めぐりを取材してきました!最も重要視したことは「地域×子ども」です。まず私たちは小学6年生の5人組と一緒に自宅に訪問しました。そこでびっくりしたのは大きな雛壇はもちろん、「よく来たね」との暖かい歓迎。「子どもたちが地域と関わることでこんなに笑顔を生むんだ」と思いました。子どもたちと地域が関わることの重要性を感じました。

子どもと地区の関わり

柳原地区の皆さんは雛めぐりをどう思っているのだろうと、お母さん方に取材ターゲットを変え!「笑、3軒ほどお邪魔した中で印象的だった言葉は、「子ども達が少なくなっている寂しさもあるが、この地区で育っている嬉しさがある」「みんなと会話できる機会が雛めぐりという行事で生まれている」「ただお菓子をあげるだけではなく、地区や地域の文化を少しでも伝えていきたい」など、いただきました。柳原地区は暖かい空気に包まれていました。

道草便りvol.12(先月号)に誤りがありました。訂正して、お詫び申し上げます。申し訳ございませんでした。
【本文20行目】
◎東京オリンピック
◎冬季オリンピック

ぶんばい

金山杉俳句会報 第四二七回

叙歎せる夫の手を引く友の春
神室嶺に吹く風木の芽ゆり起す
星川 きえ子

桃色の春の風吹く散歩道
早春の舌にピリリと辛子漬
岸 あき子

杉山のはだれ雪見る沢こだま
薄もやの山野を照らす朧月
高橋 洋子

約束を守りて愛でし福寿草
連弾の指しなやかに春愁ひ
鶴沼 よし子

生垣のろう梅にふと友の影
内裏離揃って還暦迎へけり
阿部 サタエ

かねやま紅風会

雪散らし雀小枝に遊びをり
手の平のほどの幸あり寒椿
荒屋 阿部 勝子

入学の旅立ちなれど母淋し
雪囲ひ解かれてはしゃぐ庭の木々
菅 越 庄司 けみ子

卒業児目線はなさぬスマホかな
庭木から天ぶらの具や初彼岸
七日町 青柳 キエ子

語りての遠野の街は春何処
平成を惜しみて舞ふや春の宴
七日町 柴田 栖静

タイヤ換へ三寒四温に躊躇へり
校長に名前呼ばれて中卒す
羽場 坂本 徳太郎

連山へ起床太鼓や春の雷
雪囲ひ解かれて広し青い空
上 台 阿部 一步